

■永井柳太郎 政治家。〈大正デモクラシー〉代表から〈満州事変〉で挙国一致論に、〈敗戦〉直前、国民に詫びて没した。

ながいりゅうたろう

明治14年政変1881＝ 石川県金沢で、旧加賀藩士で小学校教員永井登の長男に生まれる。

帝国憲法発布1889＝ 8歳：  
帝国議会始・1890＝ 9歳：

日清戦争始・1894＝13歳：

石川県尋常中学，同志社中学，関西学院普通学部を経て，

Bushidou・・1899＝18歳：

田中正造直訴1901＝20歳：東京専門学校(早稲田大学)に入学，

日露戦争終・1905＝24歳：早稲田大学を卒業。在学中早稲田大学雄弁会に所属し，同会での演説が大隈重信に認められ，満鉄発足・・1906＝25歳：オックスフォード大学に留学。

伊藤博文暗殺1909＝28歳：帰国し，母校の早稲田大学で植民学教授となり，  
韓国併合・・1910＝29歳：大隈重信主宰の{新日本}の編纂に従事，  
敬虔なクリスチャンで，日本基督教会の牧師三浦徹の長女次代と結婚。

明治天皇没・1912＝31歳：  
大正政変・・1913＝32歳：第一次山本権兵衛内閣成立直後から，政友会自体に激しい非難を繰り返し，  
第一次大戦始1914＝33歳：第2次大隈重信内閣期には犬養毅をも批判して『大正期のリベラリズムを代表する一人となり，選挙拡張論を唱え，

ロシア革命・1917＝36歳：早稲田大学を退職し，『第13回総選挙で石川県第1区に憲政会から立候補するが，政友会の中橋徳五郎に203票差で敗れる。金沢兼六園内で，シーザーの戦勝報告「来た，見た，勝った」をもじった敗北報告の演説'来たり，見たり，敗れたり'して話題に。

本格政党内閣1918＝37歳：欧米巡遊に出て，

ベルサイユ条約・1919＝38歳：帰国。

大暴落・・・1920＝39歳：『中橋が大阪9区に回った第14回総選挙では政友会の米原於菟男を破って初当選。衆議院で初めて行った演説'西にレーニン，東に原敬'は，"選挙の天才"原総理率いる政友会が地滑り的大勝を収めたことを受け，原を独裁者レーニンに喩えて評判になったが，この演説で初懲罰を受ける。以後連続8回連続当選。

原敬首相暗殺1921＝40歳：水平社結成・1922＝41歳：大隈と同様，グラッドストンを深く尊敬しており，この年，グラッドストンの伝記を著している。

関東大震災・1923＝42歳：この年誕生した次男永井道雄は，戦後の三木内閣で文部大臣をつとめる。

護憲三派圧勝1924＝43歳：『加藤高明内閣以降3年間外務参与官となり，  
円本時代始・1926＝45歳：第一次若槻礼次郎内閣による台湾銀行救済を否決した枢密院の無用論を展開，非選出勢力を徹底批判。

共産党事件・1928＝47歳：翌年にかけて，北陸毎日新聞社長をつとめ，

世界恐慌・・1929＝48歳：『浜口雄幸内閣で外務政務次官となる間，一貫して協調外交を展開するが，  
海軍軍縮条約1930＝49歳：中国を訪問し，蒋介石と会談したことを受けて，帰国後私的会合を持ち，後に憲兵隊に追及される。

満州事変・・1931＝50歳：翌年にかけて，『民政党幹事長。満州事変直後，民政党機関誌{民政}に「満州事変に関する外交批判」を発表，状況急変への衝撃と困惑を示し，国家主義大衆党を指向し，挙国一致論へ転換して行く。

五一五事件・1932＝51歳：『斎藤内閣の拓務大臣になると，グラッドストンの思想を受継いで帝国主義政策の改善にあたる。庄重さを本領とする雄弁家として知られ，齒に衣着せぬ演説で高名だった中野正剛と対称をなし，民政党内では親軍派の中心にあり，聖戦貫徹議員連盟に参加。近衛文麿主唱の新体制運動にもいち早く呼応し，

芥川直木賞始1935＝54歳：翌年にかけて，『再び民政党幹事長となり，

二二六事件・1936＝55歳：『第1次近衛内閣の通信大臣を務め，

日中戦争始・1937＝56歳：

第二次大戦始1939＝58歳：『阿部内閣では鉄道大臣と逓信大臣を兼任するなど，政界のリーダーとして活躍するが，

大政翼賛会・1940＝59歳：『近衛新党運動とともに，民政党自体の解体に先だって，同志議員35名を引き連れて離党。大政翼賛政治への先鞭をつけ，大政翼賛会の常任総務となり，リベラリズムや個人主義自体を批判，

日米開戦・・1941＝60歳：『東亜局長を務め，

・・・・・1942＝61歳：『翼賛選挙では推薦候補者詮衡委員会のメンバーとなり，

創価学会検挙1943＝62歳：『東亜局長を歴任，大日本育英会創立とともに会長に就任したが，

年金+総武装 1944＝63歳：『特別科学学級を建議して可決後，『東京で空襲が本格化する状況下，東京都京橋区の自宅で，'国民に申し訳ない'と言い残して，没した。勲一等旭日大綬章。